これからの小学校教育を考える！ 情報マガジン
［ティーナビ・エデュ］

T-Navi エデュ Edu

Vol. 13
2022 November

巻頭言

学びの自己決定を子どもに委ねる

上智大学教授
（文部科学省教育課程部会委員）
奈須 正裕

【特集】小学校からの金融教育

1 金融広報中央委員会（知るぽると）インタビュー
はじめての金融教育

2 そのまま使える！
金融教育の指導計画例（家庭科）

金融広報中央委員会事務局
河合 真児

道徳

道徳授業 誌上チェック＆アドバイス

筑波大学附属小学校教諭　加藤 宣行
豊橋市立二川小学校教諭　水流 卓哉

座談会 学校教育におけるジェンダー視点の重要性（前編）

千葉大学名誉教授　片岡 洋子
千葉大学教授　土田 雄一
倉敷市立倉敷南小学校教諭　瀬戸山 博子

連載 道徳教師用指導書 活用術！

Step! 展開例から発問、問い返しを考える
横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校教諭　根本 哲弥

保健体育

子どもにも知ってほしい！ 家庭で備える冬の防災グッズ

『いつもしも』編集部

ICTで体育の授業がもっと楽しくなる！

陸上運動
◀国士舘大学講師　陳 洋明

ボール運動
日本女子体育大学准教授　須甲 理生▶

連載 事例から考える！ SDGsとの向き合い方

キッザニア

「世界を救う主役は、こども達だ。」職業体験を通じて考える、よりよい未来と自分なりのアクション

KCJ GROUP株式会社 キッザニア甲子園 企画部部長　島袋 賀旭

【光文書院からのお知らせ】
自発的に学ぶことの楽しさを見出す！
デジタルドリル「ドリルプラネット」**「自主学習機能」のご紹介**

光文書院発行の教育情報誌です。

今、必要な最新の教育情報を
詳しくやさしく
お伝えしていきます！

学ぶことが好きになる。
光文書院

小学校現場で
ご活躍されている
先生方の
力になります！

役立つ
情報満載

CONTENTS

巻頭言
学びの自己決定を子どもに委ねる »P.3〜6

学びの内容を子どもたち自身に委ね、一人ひとりの興味・関心を最大限引き出す**自己決定的学習**と、その実現のために必要な教師の支援について、奈須先生にご示唆いただきました。 奈須 正裕先生▶

特集
小学校からの金融教育 »P.7〜13

学校におけるニーズが高まっている金融教育。小学校の学習指導要領で「消費者に関する教育」の充実が図られる、高校の家庭科で金融経済教育が必修化されるなどの動きが出てきています。金融広報中央委員会（知るぽると）の河合真児さんに、金融教育のニーズが高まっている背景や、小学校での金融教育の進め方、留意点などについて伺いました。

道徳
道徳授業 誌上チェック&アドバイス »P.14〜15

道徳座談会
学校教育における**ジェンダー視点の重要性**（前編） »P.16〜17

道徳教師用指導書 活用術！
展開例から発問、問い返しを考える »P.18〜19

保健体育
【保健】 子どもにも知ってほしい！
家庭で備える冬の防災グッズ »P.20〜21

【体育】 **ICTで体育の授業がもっと楽しくなる！**
陸上運動／ボール運動 »P.22〜25

連載・お知らせ
事例から考える！
SDGsとの向き合い方 **キッザニア** »P.26〜29
「世界を救う主役は、こども達だ。」
職業体験を通じて考える、よりよい未来と自分なりのアクション

【光文書院からのお知らせ】
自発的に学ぶことの楽しさを見出す！デジタルドリル「ドリルプラネット」
「自主学習機能」のご紹介 »P.30〜31

▸▸▸ 読者参加型情報誌を目指してまいります

ご要望をお寄せください！

この二人の対談記事を読みたいですね！
▼
弊社がコーディネートして、対談企画を実現していきます。

特別支援教育を特集してほしいな。
▼
弊社がご要望のあったトピックを取材して、誌面でお伝えします。

私の道徳実践を達人先生に助言してほしい！
▼
道徳指導や実践経験の豊富な先生に、本誌上で助言をいただきます。

取り上げてほしい情報やご意見を、弊社 Webサイトを通してお寄せください。

お問い合わせフォームはこちら
ご意見・ご感想は、弊社Webサイトを通してお寄せください！

公式Twitterはこちら
Twitterでも募集中！
ハッシュタグ「#なるほどてぃーなび」をつけてつぶやきをシェアしてください！

T-Navi Edu

T-Navi Edu（ティーナビ・エデュ） Vol.13
発　行　2022年11月
編　者　小学校若手教員サポート研究会
著作兼
発行者　長谷川　知彦
発行所　株式会社光文書院
〒102-0076　東京都千代田区五番町14
TEL　03-3262-3271（代）
URL　https://www.kobun.co.jp/
印刷・製本　三松堂株式会社

◇表紙・本文デザイン：Tokyo A
◇本文イラスト：熊アート

巻頭言

学びの自己決定を子どもに委ねる

学びの内容を子どもたち自身に委ね、
一人ひとりの興味・関心を最大限引き出す自己決定的学習。
教師の丁寧な教材研究と支援が不可欠です。

上智大学教授
（文部科学省教育課程部会委員）
奈須 正裕

自己決定的学習

一人ひとりの子どもの興味・関心を最大限許容し、また発揮できる授業にしたい。それは教師なら誰しもが願うことであり、個別最適な学びの観点からも大切なことです。

当然ながらそこでは、子どもたちの自由な意思決定が尊重される必要があります。人は誰しも自由を切実に求めています。ところが、従来の学校は何から何まであらかじめ決められていて、ほとんど自由がありませんでした。だからこそ、自分で決めて進められる自己決定的学習を子どもは大いに歓迎しますし、一所懸命に取り組むのです。

順序選択学習

自己決定的学習の中でも、もっともシンプルなのは順序選択学習です。教科学習ではよく系統性がいわれますが、実際には単元内のいくつかの学習内容や学習課題の順序を入れ替えても問題なく学べる場合が少なくありません。教科書に示された順序も、多くは合理的な学習順序の一例示と解釈すればよく、その証拠に、他社の教科書では別の順序になっていることもあります。ならば、子どもが学習順序を選べるようにしてはどうでしょうか。

従来の学習

学ぶ内容があらかじめ決められていて
全員が同じ課題、同じタイミングで学ぶ

自己決定的学習

個別最適な学びの観点からも大切！
子どもたち一人ひとりの興味・関心や学習スタイルが最大限許容され、発揮できる

たとえば、１年生算数の図形学習では、点を線で結ぶ、棒を操作する、色板を組み合わせるという三つの異なる方法で「図形の構成」について学びますが、三つをどの順序で行っても特に問題はありません。そこで、三つの活動を各自で自由に展開できるコーナーを、教室や隣接するオープンスペース、空き教室などに設置し、活動の順序やそれぞれにかける時間を各自に委ねてみると、ダイナミックで柔軟性のある順序選択学習にできます。

自己選択の機会を増やす

順序選択学習では、選択といっても、結局は指定されたすべての課題や活動の遂行が要求されます。食事のメニューはすべて決まっていて、何からどのような順序で食べるかだけ自分で決めてよいという程度の自由度にすぎません。にもかかわらず、子どもは「どれからやろうかな」などと目を輝かせているから不思議です。

この事実は、従来の学習がいかにがんじがらめだったかをよく表しています。どんな順序で食べるかさえ、いちいち指示されていたのです。「今日は色板を使っていろんな形をつくってみましょう。最初につくるのは、おうちの形です。５分でやってみましょう」といった具合です。それが終わればロケット、お花と続きますが、本当は何からつくっても、何分かけても、まったく問題はないはずです。

このように考えると、なぜこれまですべてを教師が決め、教師の指示の下で進めてきたのか、不思議なくらいです。主体性や個性、自ら学び進める力を育むには、自己選択の機会を増やすことが有効です。

課題選択学習

順序選択学習とは別に、学習課題を自由に選択できる課題選択学習という学習方法もあります。単元や小単元の目標を達成するための学習課題が複数考案できる場合に、実施可能となります。子どもは自らの興味・関心に応じてそのうちの一つを選択し、その課題のみを追究します。

資料1　1年生算数「図形の構成」の順序選択学習の様子

▲点を線で結ぶ

▲色板を組み合わせる

▲棒を操作する

自分で選択できる余地があることで、いきいきと学べていますね。

課題選択学習は、これまでも生活科などでは盛んに実践されてきました。育てる野菜、つくるおもちゃ、探検するお店、表現や発表の方法など、生活科では課題選択になっていない授業を探す方が難しいくらいです。しかし、それですべての子どもにしっかりとした学びが保障できているかというと、心許ない部分もあります。

２年生の動くおもちゃづくりで考えると、代表的な動力であるゴムの力と風の力では、ゴムの方が工夫の余地が大きくなっています。動力の様子とおもちゃの動きを原因と結果で把握したり、さまざまに試して結果から予想の適否を確認したりするにも、ゴムの方が有利です。

子どもたちはおもちゃの動きに興味津々で、「こんな動きをさせたい」と願ってさまざまに改良を進めます。そう考えると、選択した課題によってその願いの実現、さらにそれと相即的に結びついている学びの深まりに大きな違いがあるのは、少々問題です。もちろん、だからといってゴムのおもちゃに統一するといったやり方も、生活科のねらいからして本末転倒なのは明らかでしょう。

大切なのは、子どもに選択を委ねる際、各選択肢がもたらす学びの深まりや活動展開の広がりについて、教師はしっかりと教材研究をし、何が起こりそうかを的確に、また幅広に把握する必要があるということです。とりわけ、学びの深まりに困難が予想される風の力について、それを克服し、豊かな学びを実現するための多様な支援策や学習環境整備に注力することが望まれます。

選択課題ごとに指導案を書き分ける

さらにいえば、選択肢ごとに指導案を書くべきです。せめて「予想される子どもの活動」と「教師の支援」だけでもしっかり書き分けておくと、授業は格段によくなります。ゴムと風では、子どもが出合う問題やそれをどうやって乗り越えていくかにさまざまな違いがあります。生活科の指導案でよく目にする「それぞれの活動を臨機応変に支援する」「一人ひとりのよさを認めて励ます」といった大雑把な計画や準備では、多様な姿を示す子どもたちに対し、意味のある支援をタイミングよく実施できる可能性は決して高くはありません。よく「生活科は活動の自由度が高いから何が起こるかわからない」という声がありますが、だからといって「出たとこ勝負」では、教師として怠慢のそしりを受けることは免れません。「何が起こるかわからない」からこそ、何が起こっても適切な対応が取れるよう、教材研究を深め、子どもの見取りに専心すべきなのです。仕込みの段階で手抜きをせず、丁寧な仕事をすればするほど仕上がりがよくなるのは、料理も授業も同じです。

生活科では、新聞にまとめる、紙芝居をつくって演じる、ポスターで訴えるといった具合に、表現活動の選択が子どもに委ねられることも多いのですが、何をどう表現するのか、誰にどのようなメッセージを伝えるのかによって、適切な方法は変わってきます。その点を教師が丁寧に見取り、また各表現方法の特質をふまえることで、表現方法を選択する段階でも、選択した方法で表現を工夫する段階でも、より適切な支援が可能となってきます。

課題選択学習という視点から従来の取り組みを見直し、改善を図ることで、子どもの興味・関心に応じつつ質の高い学びの実現が見込める生活科授業にすることができるのです。

自由研究学習

順序選択学習や課題選択学習のほか、自由研究学習もあります。 興味・関心やキャリアの方向性に基づき、自由に学習内容を設定して探究する学習方法です。斬新に思えるかもしれませんが、夏休みの自由研究を教師の支援の下で充実させると考えれば、納得いただけるでしょう。学習指導要領上は、個人により探究課題が異なる総合的な学習として実践が可能です。

各自の判断で何をどう学んでもよいのですが、だからこそ課題設定では表層的な興味に流されぬよう、自身にとってそれを学ぶ意味を明らかにするよう求めたり、探究が場当たり的で散漫なものとならないよう、学習計画の立案と自己評価の機会をしっかりと設け、教師が必要な指導や支援を行ったりすることが重視されてきました。

興味深いのは、相当数の子どもが教科の発展学習に取り組むことでしょう。資料２は、室町時代の学習をきっかけに、お茶のお点前を体験的に学んでいる様子です。子どもにとって、教科はつまらないものではありません。ただ、どこにおもしろさを感じ、何をさらに学びたいかには大いなる多様性があります。自由研究学習はこの多様性を保障することで、結果的により多くの子どもが教科の本質へと肉薄するのを支えてきたのです。

資料2　本物の道具でお茶のお点前を体験的に学ぶ

自分の興味・関心を追究した結果、教科学習への理解も深まっています。

資料3　タブレットを活用して作曲に挑戦

資料4　バイクの仕組みを納得がいくまで研究

特集

小学校からの金融教育

注目企画 1

金融広報中央委員会（知るぽると）インタビュー はじめての金融教育

金融広報中央委員会（知るぽると）の河合真児さんに、金融教育のニーズ増加の背景や、小学生からの金融教育の進め方・留意点などを伺いました。

インタビューは p.8 から！

注目企画 2

そのまま使える！ 金融教育の指導計画例（家庭科）

金融広報中央委員会（知るぽると）さんに、授業にそのまま取り入れられる実践例をご紹介いただきました。金融教育に取り組んでみたいと考えている先生は必見です！

実践紹介は p.12 から！

注目企画 1

金融広報中央委員会（知るぽると）インタビュー

はじめての金融教育

学校におけるニーズが高まっている金融教育。小学校では学習指導要領の「消費者に関する教育」の充実が図られる、高校では家庭科で金融経済教育が必修化されるなどの動きが出てきています。その一方で、「そもそも金融教育とは何か？」「どのように指導をしたらよいか？」と悩んでいる先生もいらっしゃるのではないでしょうか。

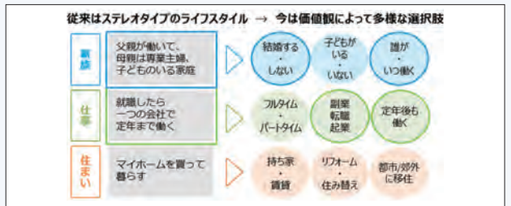
今回は、金融教育の体系書として全国の学校で活用されている「金融教育プログラム―社会の中で生きる力を育む教育とは―」を発行した、金融広報中央委員会（知るぽると）の河合真児さんに、金融教育のニーズの背景や、小学校で実践できるアプローチについてお話を伺いました。

金融広報中央委員会事務局
河合 真児

小学校の金融教育について

── 金融教育のニーズが高まってきている背景について教えてください。

背景には、ライフスタイルの多様化があると思われます。従来は、父親が働いて母親が専業主婦で、会社に就職したら定年まで勤める…という形が一般的でした。ですが、社会や経済環境の変化、平均寿命の延伸、価値観の変容などにより、今ではライフスタイルに多様な選択肢が生まれています。



出典：金融経済教育推進会議 eラーニング講座「マネビタ」

他には、金融分野のデジタル化もあります。元々金融分野はテクノロジーを多用している産業でしたが、2000年代に入ってスマートフォンが登場してからは、特に個人の金融をめぐる環境が大きく変わりました。具体的にいうと、スマートフォンを使って簡単に送金できるようになったり、クラウドファンディングができるようになったりということがあります。また、ここ最近ではさまざまなIT技術と結びついて生まれた新しい金融サービス、いわゆるフィンテック（※１）が進展しています。このように、金融分野は無限の広がりを見せていて、人々の暮らしを大きく変えてきています。

（※１）Finance（金融）とTechnology（技術）を組み合わせた造語。

したがって、社会・経済構造の変化が激しく、選択肢も多い社会の中で生きる子どもたちには、社会の仕組みを知り、自分で考え、判断していく能力がますます重要になってくると思います。そのためには、社会の仕組みに関心をもち、金融リテラシー（お金や暮らしに関する知識）をしっかり身につけることが必要ですよね。そうした流れから、若いうちからの金融教育が拡充されています。

── 金融教育とは具体的にどのような教育なのでしょうか？

金融教育とは、お金や金融のさまざまな働きを理解し、自分の暮らしや社会について深く考え、価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて主体的に行動できるようにするための教育です。

私たちが発行している『金融教育プログラム―社会の中で生きる力を育む授業とは―』（以下、『金融教育プログラム』）では、金融教育を「生活設計・家計管理に関する分野」、「金融や経済の仕組みに関する分野」、「消費生活・金融トラブル防止に関する分野」、「キャリア教育に関する分野」という４つの分野に分け、身につけるべき教育目標の概要を分野ごとに整理しています。（資料１）

▲『金融教育プログラム
―社会の中で生きる力を育む授業とは―』

詳細はこちら

資料１：金融教育の４つの分野

出典：金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」【改訂版】p.2

── 各発達段階ごとに学ぶべき内容を教えてください。

小学校の低中高学年、中学校、高校の発達段階に沿った目標「学校における金融教育の年齢層別目標」が参考になると思います。

資料２は金融教育の４つの分野のうち、「生活設計・家計管理に関する分野」の年齢層別目標の一部です。

小学校の低学年は、集団や社会のルールを守る態度を身につけたり、善悪の判断・規範意識などの基礎を形成したりする段階です。そのため、まずはものやお金の価値を知り、お金を大切にすること、そしてほしいものがすべて手に入るわけではないことを学んでいくことが重要です。高学年になると、集団における役割や責任を担う場面が増えていくので、その体験学習を通じて実社会への興味関心を育てることが効果的ではないでしょうか。そしてその中で、お金には限りがあるということを理解し、計画的なお金の使い方を学び、プリペイドカード、キャッシュレス決済についても理解を深めていくことが必要だと思います。

▲低学年で得た知識を高学年に展開していく

── 小学校の先生方が、金融教育を一番初めに取り入れやすく、効果的な教科はあるでしょうか？

低学年では、生活科や道徳などの授業にお金や働くことの大切さなど、金融教育の基本的な要素を取り入れていき、高学年では社会科などに絡めていくのが適当だと思います。

実際に沖縄県の小学校では、地域の方々の協力を得て、子どもたちが生活科で育てたキュウリを地元の売店で売ってもらう実践をされた先生がいました。小学校の授業は、担任の先生がすべての教科を担当することが多く、お金を各教科に関連づけて授業を実施しやすいのが特徴です。この実践の話でいうと、当然そこにはお金の計算という算数の要素が入ってきたり、販売するための看板をつくるという図工の要素が入ってきたり…。さまざまなことに取り組みながらお金の大切さに気づける授業ができます。金融教育は教科内にとどまらず、ぜひ教科間で連携をしていただくとよいのではないでしょうか。

── 金融教育は学校や地域の方々だけではなく、家庭との連携も必要になってくるかと思います。

そうですね。金融教育は家庭で得られる知識・体験が多いこともあり、保護者の方とのやり取りが最高の教材でもあると思います。たとえば、学校で学んだ知識（お

資料２：年齢層別目標

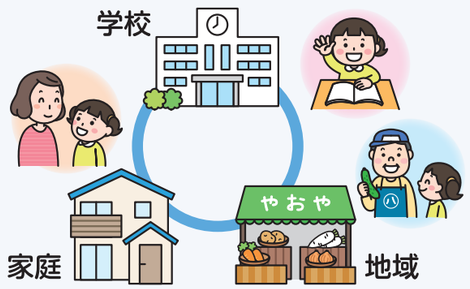
分野目標			年齢層別目標 小学生 低学年	中学年	高学年
A 生活設計・家計管理に関する分野	ア 資金管理と意思決定	使える資源には限りがある（予算制約）ことを理解する	●ものやお金の価値を知り、大切にする（生活、道徳） ●ほしいものをすべて手に入れることはできないことを知る	●ものやお金には限りがあることやお金の大切さを理解する（社会）	●ものやお金には限りがあることを理解し、よりよい使い方を考える（家庭） ●お金の使い方について見直しながら、自ら節度を守り節制に心掛ける（道徳） ●プリペイドカードなどは金銭同様に大切に扱う必要があることを理解する（家庭） ●必要性を考えて、計画を立て、それに沿って買い物ができる（家庭） ●商品の選び方を知り、工夫して買い物ができる（家庭）
		限られた予算の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する技能と態度を身につける	●ほしいものが手に入らない場合に、がまんできるようになる ●予算の範囲内でものを買うことができる	●ほしいものと必要なものの区別ができる ●お金の適切な使い方を知ることを通じて節度ある生活の大切さに気づき、実践する（道徳） ●こづかいとしてもらったお金や使ったお金の記録をつけることなどを通じて、お金を管理する	
		資金管理に関する意思決定の基本を理解し、実践する態度を身につける			●お金の使い方について自分なりの考え方をもち、意思決定する態度を身につける

分野目標および年齢層別目標は、学習指導要領または同解説に示された教科等の内容を反映させていますが、記述されていないものもあることにご留意ください。
・年齢層別目標のうち末尾に教科等名が記載されたものは、学習指導要領または同解説に照らして、その内容を学習する教科等を挙げています。
・年齢層別目標のうち末尾に教科等名が記載されていないものは、各教科における発展的な学習や、総合的な学習の時間および特別活動において実践されてきたものなどを中心にとりまとめたものです。

※金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」【改訂版】p.3を参考に弊社作成

金には限りがある）をふまえて、お小遣いの額を上回るほしい物があった場合には数回分を貯めて使うなど、家庭を学校で学んだ知識の「実践の場」にすることができると理想ですね。

貯蓄・消費者行動の実践に結びつくことを期待して、家庭と連携してお小遣い帳を活用してもらったり、買い物に行った際に限られた予算の中で品物を選んでいる保護者の方の様子を子どもに見せてもらったりすることで、子どもの金銭感覚を養うことができると思います。さらに、家計にはさまざまな公共料金があるので、水道料金などの話を一緒にすることでお金と社会の関係についても興味関心をもってもらえるのではないでしょうか。



▲金融教育は学校・家庭・地域との連携が必要

―― 子どもによって家庭環境が異なるため、学校での金融教育が難しいとお考えの先生も多いと思います。

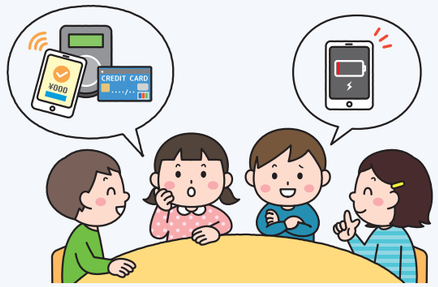
たしかに、それぞれの家庭の事情を気遣いながら授業をしなければならないのが難しいという声をよく聞きます。先生によっては連絡帳を活用して、家庭状況についてのアンケート（お小遣いはいくらもらっていますか？家の人とお金の話をしていますか？　など）を実施してから授業を行ったというケースも聞きます。そのように事前に保護者とコミュニケーションをとるのも一つの手ではないでしょうか。

金融教育の変化について

―― 近年はキャッシュレス化が進んでいますが、金融教育にも変化が生じているのでしょうか？

先ほど、金融分野のデジタル化のお話をしましたが、お金の形が変わっても、お金やものを大切に使うべきだということや、収支を管理する必要があるということに変化はありません。ただ、お金の仕組みには変化が生じてきているので、そこは子どもにしっかりと教える必要があると思います。

キャッシュレス決済に関する理解度アンケートを実施し、それを基に授業を展開している先生もいます。実際の授業では、キャッシュレス決済のメリット（現金に比べて簡単に支払いができる・お釣りがない）やデメリット（停電のときに使えない・お金を使った感覚がもちにくい）についての議論などをしているようです。大人が思っている以上に子どもはキャッシュレスに詳しいです。最近はキャッシュレス決済やプリペイドカードの使用が犯罪やトラブルの原因になることも増えてきているので、今後は金融教育の中でそのような危険性も教えていくのが重要になると思います。



金融教育の教材について

―― 知るぽるとさんが提供している「おかねのね」という小学生向けコンテンツは、一人一台端末が普及してきた今、かなり活用できそうに思います。ICTと金融教育の関係についてはどのようにお考えでしょうか。

ICT端末と金融教育は、なじみやすいと思いますね。先ほど申し上げたキャッシュレス決済やお小遣い帳も、ICT端末を使うことで、収支の計算が簡単にできます。金融教育関係者との話や、海外の事例などを見ていても、やはり若い世代に金融教育をしていくにはデジタル、とりわけクイズやゲームを活用するのが効果的だと感じます。

ゲーミフィケーション（ゲーム化）という言葉がありますが、金融教育においてもいかにゲーム的な要素を入れるかが重要といわれているので、私たちとしても時流に乗った教材を常に提供していきたいです。

―― 金融教育ではどのような教材を使えばいいのか、迷っている先生もいらっしゃると思います。

私たちはホームページで、先ほどの「年齢層別目標」に沿って作成した実践例や、お金の知恵を学べるリンク集「金融学習ナビゲーター」を提供しています。リンク集では、連携している各団体、NPO法人が提供している金融学習用の教材をまとめています。分野・分類別の検索はもちろんのこと、教材を種類別（読み物・映像教材など）に検索もできるので、教材に迷われたときにぜひこのナビゲーターを活用していただきたいなと思います。

―― 実践例や教材だけでなく、先生向けのセミナーも開催されていますね。

「先生のための金融教育セミナー」という形で、小中高の金融教育の実践事例を、担当教員の解説を交えて紹介する動画をオンデマンドで配信しています。先ほど、生活科での「地元のお店にキュウリを売ってもらう」という実践を紹介しましたが、2022年度新規配信セミナーではその先生（沖縄県・山本銀平先生）の実践例をご紹介します。金融教育のヒントを得たい先生には、ぜひ見ていただきたいと思います。

▲知るぽるとホームページにある「金融学習ナビゲーター」
金融教育用の教材を対象者（小学校低・中・高学年）別に探すことができる

―― これまでのセミナーに参加された先生方からはどのような反応がありましたか。

先ほども触れましたが、やはりお金について教えるとなると、お小遣いの渡し方など、家庭環境の違いが出てくるので、気遣いながら授業をするのが難しいという声はよく聞きますね。

ですが、圧倒的に多いのは、「子どもたちに必ず教えるべき内容であることに気づいた」という前向きな声です。そのことに今まで気づかなかったが、今後は積極的に教えていきたいというような先生方の声を聞くと、とても心強いです。

―― 金融教育を通じて子どもたちに教えたい、教えなければならないことが多くあると思いますが、これだけは伝えたいということはありますか。

なかなか一言で言うのも難しいですが、「お金には限りがあるので計画的に使っていきましょう」ということですね。よほどのお金持ちでない限りは、制約があり、私たちはその限りある資源の中で生活を考えていきますが、生活は社会環境や家庭環境によって変化が生じます。そして、そのときに大事になってくるのは、いかに適切な行動ができるかという判断力なので、やはり、「限りあるお金をうまく使う」感覚を若いうちから身につけてほしいなと思います。

―― 最後に、先生方へメッセージをお願いいたします。

環境が変化していく中、学校教育においては主体的・対話的で深い学びが求められていますが、そのための教育として、金融教育は格好の材料だと思います。お金を中心として他教科への関心を広げてもらうといった観点からも、ぜひ金融教育を活用していただきたいです。

金融教育は、子どもたちはもちろん、きっと、先生方も「受けたことがない」という方がほとんどだと思います。先生や保護者の方には、金融リテラシーのエッセンスを凝縮したeラーニング講座「マネビタ」の視聴をお勧めしたいですね。新しいことを手探りで進めていくときは悩むこともあると思うので、そのときには私たちのような存在を頼っていただければと思います！

金融教育についてもっと学びたい方はこちら！

先生のための金融教育セミナー

今の時代に求められるテーマの動画をオンデマンドで配信します。
【募集対象】
学校・大学などの教員
教育委員会指導主事
教職を目指す大学生・大学院生

お申し込みはこちら

マネビタ

金融経済教育に関わる官庁と団体が連携して作成した動画教材です。

詳細はこちら

注目企画 2

＼そのまま使える！／

知るぽるとさんに学ぶ

金融教育の指導計画例（家庭科）

近年ニーズが高まってきている金融教育。「どの教科で取り入れたらよいのだろう」「指導計画はどのように立てたらよいのだろう」と悩む先生もいらっしゃるのではないでしょうか。

企画1でインタビューをした知るぽるとさんは、『金融教育プログラム』に掲載している指導計画例（低・中・高学年）をホームページで公開しています。

今回はその中から、６学年（５学年でも扱い可）家庭科の指導計画例をご紹介します！

6学年 家庭科

買い物名人になろう
ー計画的な買い物のこつを身に付けるー

総授業時数 8時間

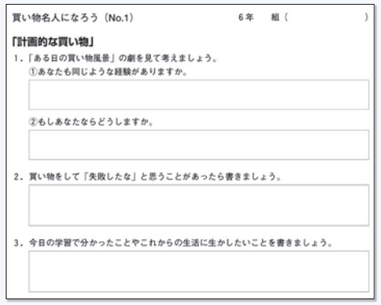
題材の目標

・日頃の買い物の仕方を見直し、よりよい方法を考えようとする態度を身に付けることができるようにする。
・商品の選び方が分かり、工夫して購入することができるようにする。
・調理に必要な材料を考え、適切に購入することができるようにする。
・必要性を考え、計画的に金銭を使うことの大切さが分かるようにする。

学習の評価

・日頃の自分の買い物の仕方から問題を発見し、よりよい方法を見つけようとしている。（ワークシート）
・商品の選び方を考えながら、目的に合った適切な購入を自分なりに工夫している。（ワークシート・実践カード）
・調理実習に必要な材料を適切に買うことができる。（購入計画シート）
・金銭の大切さと計画的な買い物の必要性を理解している。（ワークシート）

教材・資料（授業で用いる教材や資料・ワークシート等）


買い物名人になろう（No.1）　6年　組（　）

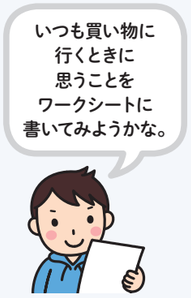
「計画的な買い物」

1.「ある日の買い物風景」の劇を見て考えましょう。
①あなたも同じような経験がありますか。
②もしあなたならどうしますか。
2. 買い物をして「失敗したな」と思うことがあったら書きましょう。
3. 今日の学習で分かったことやこれからの生活に生かしたいことを書きましょう。

買い物名人になろう（No.2）　6年　組（　）

「商品の選び方」

1. いろいろな商品の選び方を調べましょう。
2. 商品についているマークや品質表示の意味を調べましょう。



出典：『金融教育プログラム』p.94

指導計画例

時数	ねらい	●学習活動　■学習内容	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他
1・2 本時	【計画的な買い物】 ・寸劇を通して、計画的な買い物の大切さがわかる。	●「ある日の買い物風景」の寸劇を見て、自分の日頃の買い物の仕方に問題意識をもつ。 ■よく考えずに買ってしまうと、どんな問題が起こるだろう。 ■衝動買いにはどんな問題があるのだろう。 ●必要性を考えて計画的に買うことの大切さがわかる。	◆金銭の価値認識と有効な利用 ◆主体的な判断力、行動力 ◆意思決定	★子どもの家庭環境に十分配慮する。 ★子どもの実態を把握しておく。 ★寸劇は子どもに身近な事例を取り上げて設定する。	・ワークシート ・文具店コーナー
3・4	【商品の選び方】 ・品質がよく、安全な物を選び適正な価格で購入することができる。 ・用途を考え、比較して選ぶことの大切さがわかる。 ・情報を集め、選択する方法がわかる。 ・商品についているマークや品質表示の意味が分かり、活用できる。	●商品の適切な選び方、購入の仕方を調べて話し合い、発表する。 ■家族へのインタビューを行い、商品の選び方をまとめよう。 ■目的に合ったものを考えて選ぶことが大切だ。 ■価格、店などを比較して買うとよい。 ■品質表示やマークにはどんな意味があるだろう。	◆商品の適切な選び方 ◆情報の選択 ◆意思決定	★食品など身近な商品を取り上げる。 ★日常、見聞きしていること、実際に経験したことなどをまとめさせる。 ★商品の実物や品質表示などを使って具体的に考えさせる。	・ワークシート（拡大品質表示や者各種マーク）（注）
5・6	【調理の買い物】 ・野菜炒めに必要な材料を購入する。	●目的に応じた適切な材料や分量について考え、グループごとに購入計画を立てる。 ■三色炒めになるように、野菜の種類を考えたい。 ■おいしい野菜を選ぶにはどうしたらいいのかな。 ■新鮮な野菜の見分け方を調べよう。	◆商品の選択・購入	★どのように選択し、購入したか振り返らせ、次回に生かすようにする。 ＊商店等にはあらかじめ協力依頼をしておく。	
※ 7・8	【調理実習】 ・野菜炒めの調理をする。				

指導上の留意点も記載されていて、安心して授業ができそうですね。

※ 野菜炒め以外の場合は、調理実習の配当時数が２時間を上回ることがある。
（注）ワークシート No.2 所載の各種マークには、より新しいマークが発表されているものもあるが、学校や家庭の備品、家電製品等には従来のマークが表示されている可能性が高いことに配慮した。

本時の展開

本時の目標
・自分の日頃の買い物の仕方を見直し、問題に気付くことができるようにする。
・必要性を考えて計画的に買い物をすることが大切であることを理解し、実践に生かすことができるようにする。

	●学習活動	■学習内容　▼予想される児童の反応例	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他
導入	●寸劇を見て状況をつかむ。	〈寸劇の内容〉 新しいノートが必要になり、文房具店に買い物に来たところ、店内では、今流行のキャラクター付きペンケースを安売りしている。 クラスの中でも持っている友だちが増えているペンケースである。店の人も「本日限り、半額」を強調して買わせようとしている。		★子どもの家庭環境に十分配慮する。 ★子どもの日常の買い物の仕方や金銭の使い方について実態を把握しておく。 ★寸劇は子どもに身近な事例を取り上げて設定する。 ★買う側だけでなく、売る側の工夫等も浮き彫りにする。	・家庭科係の子どもなどに事前に簡単なメモを渡して演じさせてもよい。
展開①	●自分ならどうするか考え、劇の続きとして演じて表す。 ＊売り手役の子どもは売る側の工夫を考え、演じる。 ●演じた子どもは、なぜそうしたのか発表する。 ●劇を見ている子どもは友だちの発表を聞き、多様な考えがあることに気づく。	▼子どもの発表例 ■「私は買いません。欲しいけれど、むだ遣いしないようにいつもお母さんに言われているし、叱られるから。」 ■「ぼくも買わない。他の店ではもっと安く売っているかもしれない。」 ■「まだ十分使えるペンケースを持っているので、それを大事に使いたいから買わない。」 ＊売り手役「早く買わないと売り切れますよ。」 「友だちも持っているでしょう？」 ■「友だちが持っているとつい欲しくなって買ってしまうけれど、お金が足りなくなって本当に欲しい物が買えなくなるから買いません。」	◆**金銭の価値認識と有効な活用** 無計画な買い物やむだづかいの実態を見直し、計画的かつ有効に使うことが大切であることがわかる。金銭の大切さが分かり、よりよく活用できるようにする。 ◆**意思決定** 友だちの様々な考え方を知り、自分の考えをもつことができる。 ◆**主体的判断力** どのようにすればより適切なのか、自分なりに考えることができる。	★演技の上手下手ではないことを指導し、多様な考えが引き出せるようにする。 ★発言が少ない場合は、劇で演じることに抵抗のある子どもは自分の考えを発表するだけでもよいことにしておく。 ★発表者に質問があれば聞いてもよいことにしておく。	
展開②	●自分の日頃の買い方を見直し、よりよい買い物の仕方を話し合う。	■無計画に買って失敗したと思うことなどを話し合う。 ▼店先で見てほしくなり、つい買ってしまった。 ▼友だちが持っていたのでほしくなったから。 ▼宣伝につられてしまった。 ▼安いと思って買ったけれど、すぐに壊れてしまった。 ■失敗しないようにするにはどうすればいいか考え、発表する。	◆**金銭の価値認識** 自分のこづかいであっても、家族の労働の対価であり、限りがあることを踏まえ、適切な使い方ができるようにする。	★劇の中に表された問題点をまとめながら、個々の実態に即して考えさせるようにする。 ★失敗経験のない子どもがいれば、励まし、意欲の継続につなげる。 ★日頃の買い方等を見直し、どうすればいいか考えさせる。 ★具体的な事例が出されない時は、事前に保護者の思いなども録音しておいて聞かせる。	・テープレコーダー
まとめ	●よりよい買い物の仕方を考え、発表する。	■買う前に本当に必要かどうか、よく考える。 ▼買わずにすませる方法を工夫する（再利用、譲り受けるなど）。 ■これまでの買い物の仕方を振り返り、これから工夫したいことや実践したいことをワークシートにまとめる。	◆**金銭の有効な活用** 生活に生かす自分らしい使い方を追求させる。	★失敗をなくすために工夫していることがあれば、発表させるようにする。	・ワークシート ・実践カード

寸劇をしたり、友達の劇を見たりすることで、自分の買い物の仕方を自然にふりかえることができそうですね。

いかがでしたか？　金融教育は教科の中で身近な題材と一緒に扱うことによって、より子どもたちの理解を深められるのではないでしょうか。

知るぽるとさんのホームページでは、他の学年の指導計画例をはじめ、実践例も多数掲載されております。「もっと指導計画例を知りたい！」と思った先生方はぜひご覧ください。

指導計画例
実践例はこちら

※本誌に掲載している、指導計画例・本時の展開は、『金融教育プログラム』5.小学校における金融教育」を元に弊社で作成しています。

道徳授業／誌上チェック＆アドバイス

教えて！加藤先生

相談者・相談内容：児童の考えを深める授業

豊橋市立
二川小学校
水流 卓哉 先生

教師の問いから子ども自身の問いに変容させていくためには、よりよくあろうとする人間性を拠り所にし、わかっているつもりからの脱却を図れるような授業展開が必要だと考え、実践を行いました。内容項目を窓口に、よりよく生きていこうとする意志の表れや、心構えを養えるような道徳授業にするためのポイントを教えてください。

5年

【主題名】
誠実に生きる

【教材名】
手品師
（光文書院）

主題を通して考えたいこと

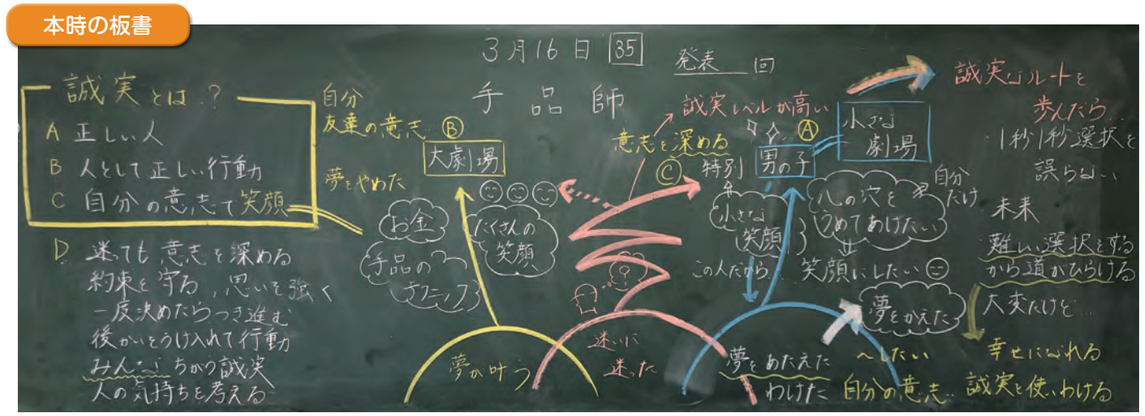
〈正直、誠実〉

●人として誠実であろうとすることは、単に正直にすることとは違い、ときとして悩み、迷う中でも一本筋の通った生き方をしようとする心が必要であることがわかる。そして、そのような心をもって自身の悩みと向き合う手品師の姿から、自他に対して誠実であろうとし、よりよく生きていこうとする態度を養う。

本時の展開

学習活動	手立て
○自分の考える「誠実」について想起し、問題意識をもつ。	●誠実に対する考えを表出させた後に、辞書の文言と比較することで、一般論として知っている概念を崩し、問題意識をもてるようにする。
○教材を読んで思ったことや、考えたことを発表し合う。	●「手品師は誠実か考えながら聞いてください。」と投げかけ、読みの視点をもたせたうえで教材を範読する。
○登場人物の行為・行動のおおもとの心を考える。	●「男の子」と「大劇場」とを左右に対比させて板書することで、手品師の葛藤や迷いに気づかせる。
○導入時と同じ発問をすることによって、初めの意識と話し合い後の意識の変容に気づかせる。 ○再構築した自分なりの誠実さがあればどのように生きていけるか考える。	●再度、「誠実とは」と問うことにより、「誠実＝正直で裏切らない、よいこと」という固定概念を覆し、道徳的価値観の再構築を促す。

本時の板書



授業で工夫した点

❶ 子どもの思考の流れを意識した発問構想

導入時に設定した問題意識を基に「本質に向かう一点の発問」を投げかけ、教材全体を俯瞰して考えられるようにした。また、問いに対する子どもたちの反応に対して「問い返し」を行い、思考を広げられるようにした。そして、意識が途切れないよう、子どもたちの言葉を紡ぎながら授業展開を講じたことで、ねらいに向けて子どもたちの意識を焦点化することができた。

❷ 子どもの思考の流れを視覚化した構造的な板書

導入と終末を同じ位置に板書し、自身の考えの変容が一目でわかるようにした。また、展開時には「男の子」と「大劇場」とを対比させて板書し、ベクトル（矢印）を活用して手品師の心の迷いや葛藤を表したり、発問の性質と連動させたりしたことで、誠実に対する本質をとらえる子どもの姿がみられた。

授業の内容

（T：教師　C：児童）

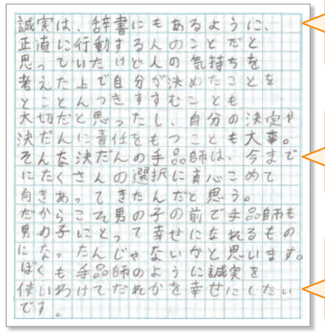
T：「誠実」とは、どのようなことだと思いますか。
C：嘘をつかない人。
C：よくわからないけど、正しいことをする人。
T：確かに、難しい言葉だよね。辞書を引くと「まじめで、嘘やいつわりのない正直なこと」とあるよ。
C：じゃあ予想が当たったね。
T：では、相手が嫌な気分になることであっても、正直に伝えることは誠実っていえるのかな。
C：それはちょっと違う気がする…。
T：では、今日は誠実についてもっと詳しく考えていきましょう。今日のお話の手品師は、誠実かどうか考えながら聞いてください。

（教材範読後）

T：手品師は誠実だと思いますか？　　本質に向かう一点の発問
C：大劇場は手品師の夢だったけど、自分の意志を貫いたから誠実だと思う。
C：でも、自分の夢は大劇場に行くことだったから、本当に誠実なら自分の意志とか夢を捨てちゃだめだと思う。
C：大劇場に行って得られるたくさんの笑顔よりも、男の子の小さな笑顔の方がいいと思った。
T：笑顔に違いがあるんですか。大劇場で見せる笑顔と、男の子に見せる笑顔との違いは何ですか？　　分析的視点からの問い返し
C：大劇場での笑顔は、お客さんが手品を楽しむ笑顔。小さな男の子の笑顔は、男の子も喜んでくれてうれしいっていう心からの笑顔。
C：大劇場は営業スマイルって感じ。でも、町の片隅で見せた笑顔は、男の子と手品師の二人でつくった笑顔。
T：だったら、迷うことなく、即決して男の子のところへ行った方が誠実レベルは高いんじゃないですか？　　批判的視点からの問い返し
C：迷っても、自分の意志で決めたから誠実レベルが高いと思う。
C：みんなで学ぶ道徳の授業と同じ。迷って、考えて、話し合うからこそ、自分の思いや考えが深まるんだと思う。
C：迷ったってことは、人の気持ちを考えたってことだから誠実レベルが高いと思う。
T：じゃあ、もしも悩んだ末に大劇場に行ったのであれば、誠実レベルが下がるってこと？　　仮説的視点からの問い返し
C：悩んで迷って決めたことなら変わらないと思う。
C：一緒なのかもしれないけど、意味が違う。どっちも笑顔はあるけど、意味とか質が変わってくる。
C：どっちに行っても後悔は残るから、後悔を受け入れることも誠実だと思う。
T：今だったら、誠実とはどのようなことだと思いますか？　　道徳的価値観の再構築を促す発問
C：自分の意志で人を笑顔にできるような人。
C：迷って考えて、後悔が残る決断だったとしても、それを受け止めて、次につなげていく人。
C：誠実に生きるって大変だと思う。でも、その弱い心と誠実に向き合うからこそ、幸せだなって思える瞬間があるんだと思う。
T：手品師のような誠実さがあれば、どのような生き方ができそうか考えながら、今日の授業を振り返りましょう。

子どもの反応

【A児の振り返り】



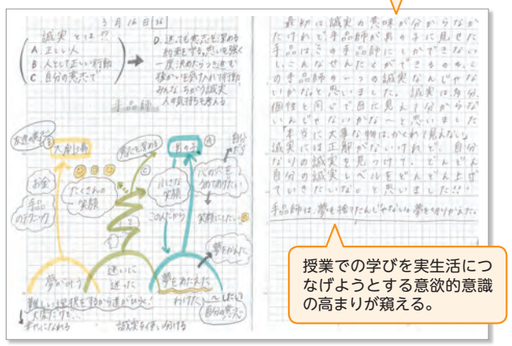
導入時に辞書の文言と比較させたことにより、授業の前後での考え方に変容がみられた。

手品師の行為・行動のおおもとの心をとらえ、そのよさに気がついている。

授業での学びを実生活につなげようとする意欲的意識の高まりが窺える。

【B児の振り返り】

内容項目「個性の伸長」と関連させながら、多面的に考えを深めている。



授業での学びを実生活につなげようとする意欲的意識の高まりが窺える。

ここはナイス！ 考えることに前向きな姿勢

深く考え議論する道徳授業を目指す以上、子どもたちが考えることに対して前向きであることが何より求められます。その点、水流先生の学級は、子どもたち自身が授業を通してより深く考えようとしています。「弱い心と誠実に向き合うからこそ、幸せだと思える瞬間があるんだと思う。」などの発言からは、よりよくありたい心をベースにして考えていこうとする姿勢が感じられます。そのような学級づくりと、今回の授業の手立てが相まってこその成果だと思います。

私ならこうする！ 学びの成果を日常生活につなげる

子どもたちには誰しもよりよく生きていきたいという「願い」があるはずです。それを根底において授業を進め、授業での学びと子どもたちの「願い」をリンクさせていくことがポイントです。たとえば子どもたちが授業中に発言した「営業スマイル」という言葉を取り上げ、「みなさんはどのような〇〇スマイルを大切にしたいですか」「そのような〇〇スマイルを誰かから感じたことはないかな」「〇〇スマイルって、自分もみんなも幸せにするね」というように、子どもたちの学びの成果を日常生活につなげることで、実生活における前向きな心を養うことができると思います。

2号連続
特別企画

道徳座談会

前編

学校教育における
ジェンダー視点の重要性

ジェンダー平等は、SDGsの５番目の目標として挙げられている世界共通の目標です。しかし、日本のジェンダーギャップ指数は、146か国中116位（「The Global Gender Gap Report 2022」世界経済フォーラム）で、世界標準には届いていません。

そこで、ジェンダーと教育をご専門とされている片岡洋子先生をお招きし、土田雄一先生、瀬戸山博子先生と座談会を実施しました。今号は学校教育におけるジェンダー視点の重要性、次号は道徳教育とジェンダーについて、２号連続でお話しいただきます。

千葉大学
名誉教授
片岡 洋子

千葉大学
教授
土田 雄一

倉敷市立
倉敷南小学校教諭
瀬戸山 博子

ジェンダーとは…

片岡：ジェンダーの定義で大事なのは、「ジェンダーは社会的・文化的につくられたもの」だという点です。そのジェンダーが、誰かを差別したり、誰かの可能性を妨げたりするのであれば、人間がつくり変えられることを表した概念なのです。

ジェンダーとは、既存の社会や文化の枠にはめるのではなく、社会や文化を変革することを求める概念と言えます。

土田：この社会的・文化的につくられたものだということをおさえておかないと、本質が見えなくなってしまうのですね。ジェンダーを学ぶうえで、学校教育が重要という点については、いかがでしょうか？

学校教育におけるジェンダー

片岡：子どもたちは、生活の中ですでにジェンダー化されています。幼い頃からおもちゃや洋服、髪型などによって男の子・女の子に分けられて、自分は男の子、または女の子だというアイデンティティとともに、すでに「こうするべき」という規範が入っているわけです。私が、附属小校長のとき、小学１年生に「どうして校長先生が女で副校長が男なの？　ふつうは逆だよ。」と言われたことがありました。その子はなぜ、どのような経験から男が上で女が下と思い込んだのでしょう。

常識にとらわれずに視点を広げ、世界は多様でもっと自由に生きられる方向に向かっていることを教え、保証していくことが、学校教育に必要だと思います。

土田：ジェンダーの枠を取り払うことがよりよい社会をつくる源になる。そのための教育を学校で進める必要があるということですね。現場でのジェンダーに関する教育や実態はどのようになっていますか？

瀬戸山：ジェンダーの考え方は、性の多様性から入ってきている感じがします。実際にカミングアウトした子どもがいて、「みんなで性の多様性を認めていこう。一人ひとりを大切にしていこう。」という教員向けの研修などもありました。ただ、頭ではわかっていても、一人の人間として、自分を変えることが難しく感じる部分もありました。

土田：これまでにいくつか段階があったと思います。一つは無意識の段階。ジェンダーに対する意識が全くなく、今までの文化や習慣にとらわれ、「こうあらねばならない」と思っていた時期です。今はきちんと正しい知識が入ってきて、教員研修もあります。ただ、知ってはいるけれど、教員側の意識はまだ変わっていないのが現状なのかなと思います。

片岡：ジェンダーは行為遂行の中でつくられるものです。つまり、学習して認識が新たになるというより、日々の生活の中で行為や関係をつくり変えていくことを通して、ジェンダーの変容が行われていきます。ジェンダーは、その人の生き方と大きく関わるものなのです。

教育現場が変わるために

土田：ジェンダーを含めた人権問題を考えるときに、特別支援教育の導入の話を思い出します。発達障害のある児童生徒に対する理解が進まなかった時代もあったのですが、最初は「そうはいってもわがままだ」という理解だった人も、10年くらいかけてだんだん変わってきたのです。ジェンダー平等についても、20年以上前に大きく取り上げられましたが、なかなか学校現場に浸透しませんでした。

瀬戸山：小学校では、名簿を男女混合にしたり、絵の具セットや水泳バッグの色などを見直したりしました。ただ形だけで、本質的な部分、つまり「一人ひとりを大事にしましょう」という人権の部分までは行き届かなかった印象です。

片岡：ジェンダーの考え方が誤解されて、なかなか浸透しなかった時期もありました。**一人ひとりが多様な選択ができることがジェンダー平等な状態であって、男女の区別をなくして同じにすることではないのです。**

◀一人ひとりが好きなものを選べる状態にする。

瀬戸山：LGBTQを公表された先生が赴任してこられたことがありましたが、大人より子どもたちの方が適応が早かったですね。先入観が少ない方が、人はそれぞれ違うということを、すんなり受け入れられるのだと思います。

土田：ランドセルの色は、いろいろな色や形があって当たり前だという感覚が常識になっていますよね。このように常識化していくことが大事だと思います。

瀬戸山：呼称を「さん」にするのは常識になってきました。また、制服も、一部条件付きですが、男女の区別なく選べるようになりました。家庭科でナップザックを選ぶときも、ピンク色のものを男の子が選んでも、ほかの子は何も言いません。こういう状況が、当たり前になってきていると思います。

片岡：一方で、教員が「男子は机運んで、女子は国旗たたんで。」と指示したり、「そこの男子うるさい！」と注意したりしているのを聞いたことがあります。**学校側が性別でのカテゴリー分けを便利に使っていないか、見直す必要があると思います。**

土田：校則や髪型なども最近見直されてきています。ジェンダーについても、変わる土壌が育ってきているのではないでしょうか。

片岡：実際に研修を行って思うことは、性の多様性への対応が課題になってきたことが、ジェンダー平等について考えるきっかけになっているということです。

文部科学省のさまざまな通知によって、学校現場は、幅広く多様な性を生きる児童生徒にきちんと対応することを求められています。その通知を基に研修が実施され、研修を重ねることで先生たちの人間や性についての認識が変わってきています。

瀬戸山：研修を受けることで、その子の個性を受け入れない自分たちの方がおかしいという発想の転換につながります。**今までの「枠にはめないとだめだ」という教育から、「一人ひとりに合わせた教育をしよう」という柔軟な考え方に変わっていくとすてきだと思います。**

土田：知識としてのジェンダーの理解から、次第に体験行動として、それが身についていくような理解へと深まっていく。その過渡期にあるのですね。

片岡：講師として伺った学校の校長先生が、「男は男らしく、女は女らしくというのがなぜだめなのかとこれまで思っていたけれど、今日の話を聞いて、もしかしたら今まで知らないうちに子どもたちを傷つけたり苦しめてたりしてきたのではないかと、すごく反省しました。」とおっしゃっていました。

性の多様性を入り口にして、「ジェンダーの枠にはめない」ということの意味が伝わります。男女の垣根をなくして同じタイプの人間をつくるのではなく、一人ひとりを大切にしようとしたときに、ジェンダーという枠で、その人の選択肢を奪ってしまったり、行動を制約したり、価値観を固定したりすることがないようにするということなのです。

土田：ジェンダーに限らず、学校での教育がすべての子どもたちに優しい教育になることを願っています。

まとめ

1. **世界は多様で、自由に生きられるということを教える必要がある！**
2. **男女の区別をなくして同じにするのではなく、一人ひとりが多様な選択ができる状態にする！**
3. **指導の際に、「性別」というカテゴリーを便利に活用していないか見直してみる！**

道徳教師用指導書 活用術！ Hop Step Jump

第２回 Step!

展開例から発問、問い返しを考える

横浜国立大学教育学部附属
鎌倉小学校
根本 哲弥

1．Hop（第１回）とのつながり

３回にわたり掲載される『道徳教師用指導書 活用術！』。

第１回では、さまざまな内容項目の関連を考えながら教材を読むことで、ねらいが明確になり、子どもの発言を生かした授業につながることを考えていきました。

第２回では、明確にしたねらいに向かって授業を進めるうえで核となる「発問、問い返し」について、展開例をもとにしながら考えていきたいと思います。

2．発問、どう考えればいいの？

内容項目の関連を考えながら教材を読み、授業のねらいを明確にすることは、いわば授業の「もと」づくり。でも、その「もと（ねらい）」に向かう発問は、どのように考えればいいの？という悩みが生まれるのではないでしょうか。そこで、まずは指導書に書かれているねらいと展開例の発問を参考に考えてみましょう。

1年 「ぼくは　いかない」

ねらい

何がよいことで何が悪いことかがわかり、よいことをしたいと思う心に動かされ、進んでよいことを行おうとする。

発問

しんちゃんはどうして「よわむしではない」と言えたのでしょうか。

4年 「お母さんのせいきゅう書」

ねらい

父母や祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとする。

発問

お母さんの心を知る前と後で、ブラッドレーの考えはどう変わったのでしょうか。

5年 「心の管理人」

ねらい

自由を大切にし、自律的に判断して、規律ある行動をとろうとする。

発問

「この場所の管理人はあなたです」とは、どのような意味でしょうか。

低・中・高学年から教材をあげましたが、それぞれに共通していることは、示されている発問がねらいに直結していることです。この発問をすると、子どもたちの発言が自ずとねらいに向かうことが予想できます。一方、発問の種類から考えると、それぞれに違いがあることがわかります。

低学年は「なぜ、どうして」と理由を問う発問からねらいに向かっていること。

中学年は「前と後」。つまり、前と後を比較して変容を問う発問からねらいに向かっていること。

高学年は「どのような」と想像させる発問からねらいに向かっていること。

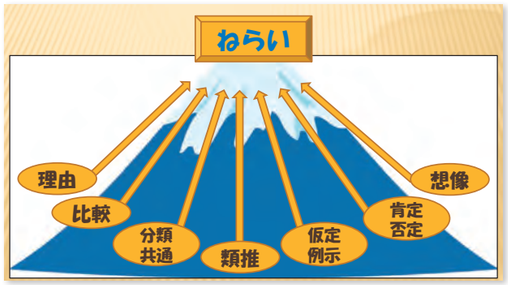
これらのことから、発問づくりのポイントを整理すると、以下のようにまとめることができます。

1 発問はねらいに向かっているか

「子どもたちに問いができ、活発に話し合うだろうからこの発問をしてみよう」という考えでは、せっかく内容項目の関連を考えて教材を読み、明確なねらいを立てた意味がありませんよね。ですから、考えた発問がどのような反応を期待した発問なのか、その反応がねらいに向かっているかどうかを吟味することが大切です。

2 発問の種類にはどのようなものがあるか

発問づくりでは、ねらいに向かっているかに加えて、発問の種類を考えることも大切です。１年「はしの　うえの　おおかみ」を例にしながら発問の種類を考えてみましょう。



1 理由…「なぜ、どうして」を問うて考えを深める

どうしておわりのおおかみは、うさぎをそっと後ろへおろしてやったのでしょうか？

2 比較…はじめとおわり、登場人物同士などの違いを問う

はじめのおおかみとおわりのおおかみは、両方とも「よい気持ち」になっていますが、何か違いはありますか？

3 分類・共通…観点を設けて、相違点や共通点を問う

おわりのおおかみとくまの同じところはどこでしょう？

4 類推…似ている点を基にして、他のことを推し量る

はじめのおおかみの「よい気持ち」を５とすると、おわりのおおかみの「よい気持ち」はどれくらいでしょう？

5 仮定・例示…仮の場を設定させて考えを拡充する

もしも抱えられないゾウさんが来たらどうでしょう？

6 肯定・否定…よいこと（悪いこと）をあえて否定的（肯定的）に問う

おわりのおおかみは、くまに怒られるのが嫌だから、うさぎをそっと後ろにやったのでしょうか？

7 想像…教材に描かれていないよさを広げ深める

おおかみはくまの後ろ姿を見ながらどんなことを考えていたのでしょう？

主に７つの種類を紹介しましたが、これらを組み合わせたり、子どもの反応に応じて問うタイミングを図ったりしながら授業を展開できるとよいと思います。

3．さらに深める問い返しを目指して

発問は事前に考えることができますが、問い返しは目の前の子どもたちの反応を受けて瞬時に返すもの、まさにライブです。さらに深める問い返しのポイントを３つに整理し、実践例から紹介したいと思います。

1. 子どもの発言の真意を考える
2. 発言の真意がねらいに向かうかどうかを判断する
3. ねらいに向かってさらに深まる問い返しを放つ

5年 「帰ってきた、はやぶさ」（光文書院）

導入 誰もが解けない謎を解くためには？

C：これまでの研究を生かす…　言質をとっておく

展開 真理を探究し続けたい心に触れた後の展開

T：これまでの研究を生かすのであれば、イオンエンジンではなく化学エンジンを使い続けた方がよいのでは？　導入での言葉をもとに揺さぶりをかける

C：簡単に真似しないことが大切。

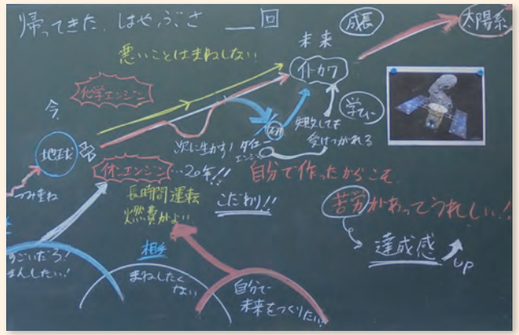
C：イオンエンジンのよさに注目して研究を続けた。

C：研究する苦労もうれしくなる。

T：苦労はない方がうれしいよね。楽してゴールした方がうれしいのでは？　一般的な概念である「苦労=苦手」という意識から問い返して深まりを図る

C：自分で作ったからこそ苦労があってうれしい！

C：新しいものを生み出すことには達成感がある！



問い返しは瞬時に対応するからこその難しさがありますが、問い返しがピタッとはまると、子どもの言葉をもとにして深まりのある授業が可能になります。

4．発問が浮かぶ！　けど、気をつけないと…

このほかにも、「発問・問い返し」にはたくさんの方法がありますが、紙面の都合上ここまで…。

さて、発問づくりに慣れてくると、いろいろな発問が浮かび、どんどん子どもに問いたくなります。しかし、それは危険！一見盛り上がったように見えても何を学んだかわからない授業になりかねません。発問を乱発しないこと。ねらいに向かって、子どもの思考に沿ったストーリーを考えることを大切にしたいですね。

子どもにも知ってほしい！

家庭で備える冬の防災グッズ

いつもしも®
子どもとママのリアル防災

『いつもしも』編集部

はじめまして、防災メディア『いつもしも』です。防災なんて面倒だし、できればやりたくない…。そんな「普通のママ」の目線から、忙しい日々でもできる備えを提案しています。

基本的な防災知識ももちろん大切ですが、家族にとって本当に必要な備えを整えるためには、現状に合わせた想像力も不可欠です。

今回は家庭の目線から、冬に確認しておきたい防災グッズについてご紹介します。学校での防災教育や、先生方ご自身の備えのヒントになれば幸いです。

ホームページはこちら

防災グッズは定期的な見直しを

防災グッズは、一度そろえたら終わりではありません。特に子どものいる家庭では、賞味期限や劣化の確認だけではなく、成長に合わせた見直しも必要です。そして、季節ごとのアイテムの入れ替えも欠かせません。

通年で必要な定番の防災グッズと違い、防寒グッズや冬物の着替えなどは、シーズンを過ぎるとほとんどが店頭から消えてしまいます。普段の買い物のついでに、災害時でも使えそうなものを入手しておくとよいでしょう。何かのついでに少しずつ備えることは、防災を無理なく・忘れず継続する秘訣でもあります。

季節ごとの防災リュックのつくり方

避難するときは、できる限り身軽であるべきです。使う季節が限定される防災グッズは、冬用・夏用とそれぞれ袋にまとめ、リュックのそばに出しておくようにします。寒い（暑い）日はサッとリュックに入れ、過ごしやすい時期は置いていくことで、最低限の荷物で避難することができます。

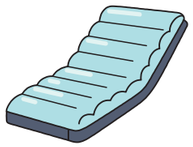
冬グッズ袋の中身の例

- 冬用の肌着（上下）
- 長ズボン
- 厚手の靴下
- 保湿グッズ
- ブランケット*
- カイロ*

＊リュックにも通年入れておき、冬は数を増やすもの

また、ほとんどの避難所では、冷たく固い床で寝泊まりしなければなりません。冬グッズ袋には、厚手の靴下など、足元をあたためる備えを入れておくのがおすすめです。肌や唇の乾燥もストレスになりますので、保湿グッズもあると助かります。

これ以外に、通年、防災リュックに入れておきたい「エアーマット」と「アルミブランケット」も大事な防寒アイテムです。



▲エアーマット

▲アルミブランケット

エアーマットは、空気を入れてふくらませる簡易的なマットです。空気による断熱効果もありつつ、固い床から体を守ってくれます。

アルミブランケットは持ち運びに適した極薄のシートで、体を包み込むことで保温効果を発揮します。ただ、じっとくるまっていないと隙間から冷気が入りこんできたり、ガサガサと大きな音が鳴ってしまったりすることもあり、子どもの寝具としては使いにくいので、別途、薄手のブランケットなどの備えをおすすめします。

災害時の防寒と聞くと、新聞紙やラップ、ゴミ袋…などを連想しがちですが、これらはあくまで代用品です。何もないときのサバイバル手段としては有効ですが、見た目も使い勝手も、あまりよいものではありません。事前に備えができるのであれば、できるだけ普段使っているものに近いグッズや、機能的なグッズを選ぶようにします。

おすすめの長期備蓄グッズ

在宅避難では、普段使っているブランケットや羽織りもの、湯たんぽ、保温ボトルなどの日用品がフル活用できます。いつも使う防寒グッズの中で、「これなら電気がなくても使える」というアイテムを家族で把握しておきたいところです。

もちろん、日用品だけでは、電気もガスもない暮らしを乗り切るのは難しいかもしれません。防災グッズとしてこの時期特におすすめしたいのは、あたたかい食事がとれるグッズです。

代表的なのはカセットコンロです。料理はもちろん、お湯にタオルを浸して体を拭く、湯たんぽをつくるなど、できることが一気に増えます。

しかし、地震が続く・ガス漏れの可能性があるなどの理由で、火を扱うことが心配になるかもしれません。そんなときの保険として重宝するのが、発熱剤と加熱用袋のセットです。少量の水さえあれば、火を使わずに食品をあたためられます。

水だけでつくれる非常食も便利ですが、同じものをお湯でつくった場合と比べて時間がかかる・味が濃く感じるなどのデメリットもあります。冬は体が冷えてしまうため、加熱グッズはぜひ備えていただきたいと思います。

また、これは冬に限りませんが、非常食も普段食べているレトルトなどを中心に備えるとよいでしょう。食べ慣れない長期保存食は、好みや体質に合わずに、食事がつらくなってしまうリスクもあるからです。

家庭の備えとしては、「ローリングストック」という備蓄法がとても便利です。長期保存食にこだわらず、いつも食べているものを多めに買っておき、食べたらその分買い足していきます。スーパーで買い物をするついでに備えられますし、季節や好みの変化にも柔軟に対応できます。冬はホッとできる汁物や甘い飲み物、カロリーの高いチョコレートなどを多めにストックしてもよいと思います。

冬休みは防災を身近に

おすすめの防災グッズをいくつかご紹介しましたが、実際のところ、万人にとって「これを備えればOK」という完璧なリストは存在しません。命を守るために最低限必要な水や食料、トイレなどは共通していても、災害時に必要なものは一人ひとり違うからです。

メガネ、アレルギー対応食、常備薬、保湿剤…。身体的なケアはもちろん、心を落ち着かせてくれるものも、人それぞれです。家の立地などによっても備えは変わります。

家族にとって本当に必要なものを備えるためには、「“自分たちは”どんなことに困って、何があれば乗り切れるだろう」と、災害を自分ごととして考える力が不可欠です。

そのように、防災を身近に感じてもらうための一歩として、『いつもしも』では、小学生向け防災学習ページ『いつもしも with Kids』の取り組みを始めました。

人気の「防災ドリル」は、習う前に知っておいてほしい防災に関係する漢字の問題や、防災の要素を取り入れた算数の文章問題などに挑戦できるコンテンツで、ボタンを押すと音が鳴り、ゲーム感覚で取り組めます。併せて、印刷して取り組めるダウンロード版も制作しました。

▲『いつもしも with Kids』の「防災ドリル」

そのほかにも、家庭で簡単にできる実験の紹介や、子どもの疑問に答えるQ&Aコーナーなどを用意しています。冬休みを利用して、こうしたWebコンテンツなどで気軽に防災に触れ、備えを考えるきっかけをつくっていただければと思います。

先生方へ

災害は恐ろしいものですが、日常と切り離しすぎずに向き合うことも大切です。好きなレトルト食品を見つける、アナログな遊びに親しむなど、一見日常的な楽しい体験も、もしものときに自分を守る力につながるはずです。大人も子どもも、災害は正しく恐れつつ、防災のハードルを下げて取り組んでいただければと思います。

ICTで体育の授業がもっと楽しくなる！

ICT活用で自分の目標記録を超えていく楽しさを

～陸上運動におけるICT活用術～

国士舘大学講師
陳 洋明

領域の運動特性

陸上運動系領域は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成されます。そして、自分の目標とする記録に挑戦したり、仲間と競争したりする楽しさを味わうことのできる運動領域です。その楽しさや喜びを保障するには、走・跳・投の技能を身につける適切な動きづくりや動きの向上が求められます。そのためにはできるだけ「易しい活動・場づくり」や「動いていて楽しい活動」を導入する必要があります。

その一方で、陸上運動系領域の授業では、学びの成果や個人の運動能力の差が数値で表れてしまうことから、運動能力が低い児童や全体的に記録が低い児童にとっては、「嫌い」「苦手」な学習と認識されやすい傾向があります。他者の記録にとらわれず、個々の体格や運動能力に応じた目標記録を持たせる工夫をすることで、個人の目標記録に到達したり、記録を更新したりする楽しさをぜひ味わってほしいものです。自分の能力や記録に向き合い、どのような技能を高めればよいのかを考えることも陸上運動系領域の面白さです。これらを踏まえて、陸上運動系領域の特性を味わうためのICTの活用について提案いたします。

領域のどの場面で、ICT活用が有効か

『小学校学習指導要領解説 体育編』における高学年・陸上運動領域では、ICT機器を活用して自己の課題を見つける例が示され、思考力、判断力、表現力等の育成が求められています。このことから、「タブレットを毎時間使って課題を見つけなければ……」と捉えてしまいがちですが、目的を明確にして使用しないと、求める学習成果は得られません。よって、陸上運動系領域で取り挙げられる各運動の単元において、ICTを使用する場面をあらかじめ検討しておく必要があります。右ページの表は、小学校高学年の走り高跳びの単元計画例です。走り高跳びでのICTの使い方のポイントは、大きく２点に分けることができます。

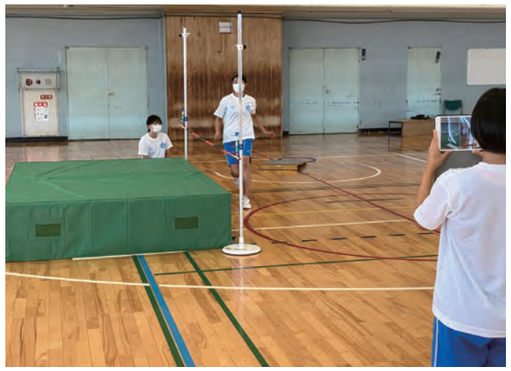
❶ 走り高跳びの技能を高めることや技能を高める練習方法を選択するために手本動画を見る。

❷ 自分の新たなめあて（課題）を見つけたり、つまずきを見つけたりするために、撮影機能で自分の走り高跳びの動きを撮影し可視化する。

❷については、走り高跳びに必要な技能が身についてくる第４時、記録測定の段階で撮影を行います。現時点の動きを見取り、課題や技術的なつまずきを把握することで、単元後半の課題解決の学習に生かします。

どのような効果が見込めるか

単元計画に応じたICTの適切な活用により、各運動の技能が高まること、課題に応じた練習方法の選択により思考力、判断力、表現力等が育まれることなどが期待されます。また、「跳ぶ人」「撮影する人」「アドバイザー」などの役割分担をする「トリオ学習」に取り組むことで、対話的な学びを保障し、児童同士の助け合いや励まし合いなども生まれることでしょう。



▲自分の動きを可視化し、めあてを見つける。

ICTを使用する目的を明確にし、有効活用することで、「目標記録の達成」や「さらなる記録の向上」が見込まれ、陸上運動系領域の楽しさや喜びを十分に味わえる授業になり、児童の「もっと上手くなりたい」「記録を伸ばしたい」という意欲が引き出されるでしょう。

ICTを活用した指導案

単元計画：6年・陸上運動　走り高跳び「リズミカルな助走から高くジャンプ！」（全6時間）

前半は、リズミカルな助走を身につけて目標記録に挑戦する活動に取り組む（「みんないっしょ」の活動）。後半は、自分の課題に応じた練習をして、より記録を伸ばす活動に取り組む（「みんなちがう」の活動）。

時	1	2	3	4	5	6
	「みんないっしょ」に活動を行う段階				「みんなちがう」活動を行う段階	
	リズミカルな助走から力強く踏み切って高く跳び、目標記録に挑戦しよう！				自分のめあてを決めて練習し、グループで走り高跳びの得点を高めよう！	
0 15	●オリエンテーション ・学習の流れ、約束、ねらいの確認、タブレットの使い方を確認 ・走り高跳びのお手本動画（全体像）を見る 【ICT活用：お手本動画を見る】 ●準備運動	集合・整列・あいさつ・学習の流れの確認 準備運動、補助運動（バスケットゴールにジャンプ、ゴム跳び越し） ●めあての確認 **「助走のリズムにのって力いっぱいとぼう」** ●3歩助走（イチ、ニ、サン！のリズム）で跳ぶ 【ICT活用：お手本動画を見る】	●めあての確認 **「自分の目標記録に挑戦しよう！」** ●自分の目標記録を設定する 【ICT活用：計算】※ ●3歩助走で跳ぶ ●5歩助走で跳ぶ	●めあての確認 **「抜き足を横に抜く動きを身に付けよう！」** ●5歩助走で跳ぶ ●抜き足の動きづくり（踏み切ったら抜き足を横に開くように抜く）	●めあての確認 **「自分のめあてを決めて練習し、自分とグループの最高得点をめざそう！」** ・撮影映像をもとに、どこを改善すれば、より高く跳べるかを考えてめあてを立てる。 ・めあてに応じた練習の仕方を知る。 【ICT活用：お手本動画を見る】 ・自分のめあてと練習の仕方に合った場で練習する。	
30	●多様なジャンプ運動 ・バスケットゴールにジャンプ ・ゴム跳び越し（踏み切り足の確認） ●短い助走からの高跳び（ゴムバーを跳ぶ）	●5歩助走（イチ、ニ、イチ、ニ、サン！のリズム）で跳ぶ 【ICT活用：お手本動画を見る】 ●各場の高さを変えて記録に挑戦（70㎝、80㎝、90㎝、100㎝など）	●5歩助走で跳ぶ ●記録会の仕方を知る 〈各チーム、各場で記録測定（記録会）〉 ※右のように全員が同じ回数跳び、記録に挑戦できるようにする。 ●自分の目標記録（得点）に挑戦 ●チーム合計得点（目安との差による個人得点のチーム合計）を高める ●タブレットによる動画撮影 【ICT活用：撮影（第4時を中心に使用し、自分の課題を発見する】 ①１人の跳ぶ回数を決める。（例：1人３回） ②跳ぶ順番を決める。（例：めやすの低い順に跳ぶ） ③跳ぶ人の高さにバーを合わせ、１人１回ずつ跳ぶ。 ④全員が１回ずつ跳んだら２回目を行う。 ⑤③～④を、①で決めた跳ぶ回数まで繰り返す。			
45	学習カードを記入する、全体のまとめ、振り返りの発表、整理運動					単元のまとめ

※第3時の「自分の目標記録を設定する」場面では、「0.5×（身長）+110-10×（50m走タイム）」の　計算式を活用し、児童個人の走り高跳びの目標記録を求めることができます。

▲自分のめあてに応じた動画を探し、練習の仕方を知る。

▲自分のめあてに応じた練習（２本バーによる抜き足の練習）をする。

ICTで体育の授業がもっと楽しくなる！

ICTの活用で対話時間の確保と戦術的課題の解決を

～ボール運動におけるICT活用術～

日本女子体育大学　准教授
須甲 理生

領域の運動特性

ボール運動系領域は、規則やルール、作戦を工夫して、集団対集団の攻防によって得点を競い合うことに楽しさや喜びを味わう領域です。その中でも、ゴール型ゲームには、ドリブル・パス・キープといったボールを持ったときの動きと、得点しやすい場所への移動や、ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動するといった、ボールを持たないときの動きがあり、その二つの動きで、ゴールにシュートしたり陣地を取り合ったりと、攻防を展開して一定時間内に得点を競い合うという特性があります。

その一方で、ゴール型の戦術的課題を解決する過程において、子どもたちは、「意思決定の契機の多様さ」「空間の流動的な変化」「行動の自由性」といったゴール型独自の難しさに直面することにもなります（岩田, 2016）。したがって、限られた時数の中で、子ども達が進んで友達と関わりながら戦術的課題を解決していくには、これらのゴール型の難しさを軽減した「易しいゲーム」や「簡易化されたゲーム」の開発・適用が求められます。

領域のどの場面で、ICT活用が有効か

ボール運動系領域においてICTを効果的に活用する方法として、ゴール型を例にすると、主に４点を挙げることができます。

1. **単元開始前に、ゲームの行い方や場の設定方法の動画を予習として視聴しておくこと。**
2. **ゲーム場面において動きを撮影し、チームタイム（作戦タイム）の際、手本、つまずき例、解決策の各動画と比較しながら動き方の確認を行うこと。**
3. **チームタイムにおいて、タブレット内に示されたいくつかの作戦例から、自チームにあった作戦を選択すること。あるいは作戦例を参考に考案して、オリジナルな作戦を立案すること。**
4. **授業のまとめ場面において、ゲーム映像を参考にしながら学習カードを記入すること。**

どのような効果が見込めるか

ゴール型において「易しいゲーム」や「簡易化されたゲーム」を開発・適用する際、実際の授業では、単元序盤にゲームの行い方や場の設定に慣れることに多くの時間がかかります。したがって、上記❶で示したように、単元開始前に動画で予習することで、単元の序盤からマネジメント（準備・片づけ・移動等の直接学習成果につながらない場面）の時間量を少しでも削減し、代わりに運動学習や友達同士の対話の時間量を十分に確保できます。また単元開始前に、ゲーム内容を確認することで、子ども達の授業への期待感や向上心を高めることもできます。

❷については、自チームのゲームに参加していない児童がカメラ機能で撮影し、その後のチームタイムにて、手本動画などと視覚的に比較することで、チームの中でうまくいった場面、うまくいかなかった場面を確認し、次のゲームに生かすことができます。

❸について、いくつかの作戦例を視覚的に確認することは、実際のゲーム場面を想定し、チーム内における個々のメンバーの動き方を明確にイメージしながら作戦の選択・立案を進めることに大いに役立ちます。

❹については、撮影したゲーム映像を個々の児童のダブレット等に共有することで、個々の児童が確認したいゲーム場面を個別に視聴しながら、「できるようになったこと」「考えたこと」等について学習カードに記入できるので、具体的なゲーム場面の事実に即した振り返りが可能になります。また、これらの振り返りをチーム内やクラス全体で共有することで、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現していくことが可能になるといえます。

（参考文献）
岩田靖（2016）『ボール運動の教材を創る』大修館書店

ICTを活用した指導案

単元計画：6年・ボール運動 ゴール型「フリーゾーンサッカー」（全8時間）

前半は、ICTを活用してマネジメント時間の削減とゲームの予習を行う。後半は、撮影と手本動画の視聴を繰り返し、作戦を工夫する活動に取り組む。また撮影したゲームの映像を視聴しながら、振り返りを行う。

時	1	2	3	4	5	6	7	8
	学習の進め方について理解し、サッカーをやってみよう。		ボールを持っている人と自分との間に守備者が入らないように移動しよう。			得点しやすい空間に移動して、パスを受けてシュートしよう。		

0 / 15 / 30 / 45

【ICT活用：動画でゲームの仕方を予習する】
1. オリエンテーション
- 学習のねらいを確認し、学習の進め方についての見通しを持つ。
- グルーピングと役割分担をする（1チーム5～6人）。
- 安全に関する約束事や活動の場などを確認する。
- 教師の指導のもとに、みんなで協力して活動の場づくりを行う。

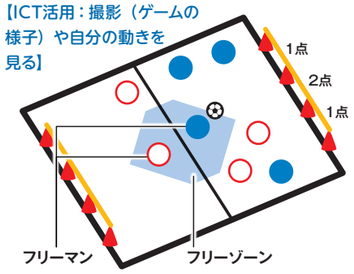
2. 試しのゲームをやってみる
- 15～20m×30～40m程度のコートで、4人対4人で簡易化されたサッカーのゲームを行う。
- コート中央にフリーゾーンを設け、攻撃側フリーゾーンに1人配置して、攻撃時は4人対3人でゲームを行う。
- 前・後半において、チーム内でローテーションして、メンバーを入れ替える。全員がフリーマンを経験する。

3. 整理運動とまとめを行う
- 試しのゲーム中の動き方の（戦術的な）課題やルールについて振り返る。

【ICT活用：手本動画、つまずき例動画などを見る】
1. 導入の活動を行う
- 準備運動、ボール慣れの運動…ボールタッチ・ボールキープゲーム・パスゲーム・スルーパス（フリーゾーンからのパス）&シュートゲームなど
- 準備運動とボール慣れの運動をルーティン化し、音楽を流しながら実施する。

2. 場づくりを行う
3. 1回目のゲームを行う（4分×2）

【ICT活用：撮影（ゲームの様子）や自分の動きを見る】



4. チームタイム
- チーム内で話し合って、「広がり作戦」、「見せかけもどり作戦」の例示から作戦を選択する。

【ICT活用：作戦例の共有】
5. 2回目のゲームを行う
- チームタイムを生かしてゲームを行う（4分×2）。

【ICT活用：撮影】
6. 整理運動とまとめを行う
- ねらいにそって「できるようになったこと」「考えたこと」「うまくいかなかったこと」について学習カードに記入し、チーム内や全体で共有する。【ICT活用：学習カードの共有】

3. チームタイム①
- 作戦をもとにした動き方の確認を行う。

4. 1回目のゲームを行う（4分×2）とチームタイム②
- 作戦を生かしてゲームを行う。
- ゲームを対抗戦形式（児童が対戦チームを選ぶ）で行うか、リーグ戦（総当たり方式）で行うかは合意形成して決める。

【ICT活用：撮影】
- チームタイム②では、作戦がうまくいった場面やうまくいかなかった場面を、動画をもとに確認する。

【ICT活用：お手本動画、つまずき例動画などを見て、自分達の動きと比較する】
5. 2回目のゲームを行う
- チームタイムを生かしてゲームを行う（4分×2）。
- 例示された作戦だけでなく、自チームのオリジナルな作戦も試してみる。

陳先生・須甲先生が今回紹介されたICT活用術は、
弊社提供の「デジ体」で再現できます！

『体育の学習』対応 デジタル図書教材
デジ体
デジタル体育
DVD版　アプリ版

「つまずき」に対応した解決法を
動画で確認！
動画撮影＆保存もできる！

詳細はこちら

＊DVD版デジ体は、児童書+指導書をセットでご採択いただいた場合にのみ、指導書分をお送りします。
＊アプリ版は、児童書+指導書のご採択校へ認証コードをご提供します。認証コードで、全コンテンツがご利用できます。
・アプリ版は、アプリストアからインストールしてご利用ください。
対応OS：iOS10～12/iPadOS13, Windows®8.1/10（2022年10月現在）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

事例から考える！ SDGsとの向き合い方

キッザニア

「世界を救う主役は、こども達だ。」 職業体験を通じて考える、よりよい未来と自分なりのアクション

「SDGs」とは、「**S**ustainable **D**evelopment **G**oal**s**（持続可能な開発目標）」の略称であり、近年、学校現場でもSDGsをテーマとした教育が増えてきました。

今回は、職業・社会体験施設キッザニアを運営するKCJ GROUP 株式会社の島袋賀旭さんに、キッザニアで実施されているSDGsの取り組みについて伺いました。

KidZania Japan

キッザニア

３歳〜15歳のこども達を対象とした職業・社会体験施設。国内には東京・甲子園・福岡の３施設があり、本格的な設備や道具を使用して、約100種類の仕事やサービスを体験することができる。

©KidZania

2021年12月より、楽しみながらSDGsを学べるパビリオン「KidZania SDGs Center（以下、キッザニアSDGsセンター）」をオープンしたほか、「働く」を通してSDGsについて考える学校団体向けのSDGsプログラムを制作するなど、SDGsにまつわる取り組みを積極的に実施している。

KCJ GROUP 株式会社
キッザニア甲子園
企画部　部長
島袋 賀旭

「よりよい世界のために」 キッザニアの理念とSDGsの結びつき

―― はじめに、SDGsに関する取り組みをスタートされた経緯を教えてください。

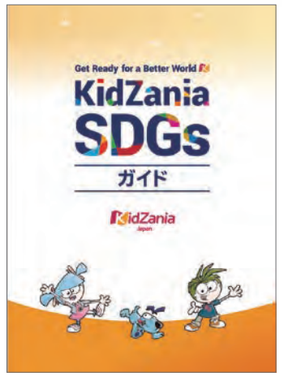
キッザニアは「こどもが主役の街」というコンセプトのもと、「よりよい世界のためにこども達が立ち上がって、自分たちが主役の国を創った」という建国ストーリーをもつ施設です。そのため、「Get Ready for a Better World ―― よりよい世界のために」という理念が、誕生とともにずっと備わっていました。

地球温暖化や海洋汚染、貧困、飢餓のような地球を取り巻く問題が深刻化するなか、SDGsの考え方は2030年で終わるものではなく、こども達が生きる未来のために永続的に継承されていく必要があると考えています。

私たちは、**今後さらに重要性が増していくSDGsについて、こども達が楽しみながら気づき、学べる体験の機会をつくることは、キッザニアの理念そのものである**と考え、「世界を救う主役は、こども達だ。」をスローガンにSDGsの取り組みをスタートさせました。

―― ホームページに掲載されている「SDGsガイド」に「『働く』にまつわる話題に注目しよう」というページがあるなど、キッザニアならではの視点が含まれていると感じます。職業・社会体験というキッザニアのサービスとSDGsとの関係性をどのようにとらえていますか。

大人でも、SDGsを自分ごと化することはとても難しいと思います。自分ごととしてとらえるためには、自分の視点だけで物事を見るのではなく、さまざまな視点をもつ必要があると思います。職業を体験することが、さまざまな視点をもつきっかけになり、自分ごと化につながる「気づき」を引き出します。



▲キッザニアSDGsガイド

たとえば、こどもが警察官の仕事を体験したとして、その一つの職業からでも「警察官になるためにはどんな教育を受ける必要があるのだろう」「これから、障がいのある人が警察官になるためにはどのような工夫が必要なのだろう」「警察官の仕事は性別関係なくできるのかな」など、SDGsの目標にある課題に目を向けることができます。

キッザニアで、**身近な職業や社会を体験して、「職業」という視点からSDGsに関する疑問や意見をもつことが、SDGsの自分ごと化につながる**と考えています。

自分なりの答えを出すことが SDGsを考える第一歩

―― 「キッザニアSDGsセンター」は楽しみながらSDGsを学べるパビリオンとのことですが、どのような工夫を施されているのでしょうか？

私たちがパビリオンでこども達と接する時間は１回あたり15分程度ということもあり、初めから「SDGsを教える」というスタンスでいると、その時点でこども達は難しさを感じたり、興味をなくしてしまったりすると思うんです。なので、導入部分ではSDGsという言葉を出さず、説明もしません。

まずは、「大人が解決してこなかった問題に対してこども達が解決しようと立ち上がった」というキッザニア建国のストーリーを紹介し、「キッザニアは、自分たちの世界をよりよくしようとするこども達が主役である」ことを伝えます。そのうえで、「では、自分が想像するよい社会、よい未来ってどんなこと？」と考えてもらうところからスタートします。

▲SDGsについて学べる「キッザニアSDGsセンター」

そして、キッザニアにはこども達と同年代のキャラクターがおり、そのキャラクターが抱えている等身大の悩みや課題意識を紹介することでこども達の共感を引き出すようにしています。たとえば、ファッションが好きなビバップというキャラクターは、季節が変わるたびに新しい服がほしくなるけれど、古い服をほかの子がどうやって処分しているのか気になっています。

キャラクターの課題意識はクイズにもなっていて、こども達は「キッザニアSDGsセンター」で各クイズに対する答えを一通り予想します。その後、「未来を変える！アクションラリー」として施設内６か所の展示をめぐり、クイズの答え合わせをしながら、新たな知識に出合ったり、自分の想像と現実とのギャップに気づいたりしていきます。

▲キャラクターの課題意識に関連したクイズに取り組む

そして、ラリーから帰ってきたこども達には、最後のまとめとして**「身近にある地球の課題を知り、その課題解決に向けて自分にできるアクションを考えることこそがSDGsを考える第一歩になる」**ということを伝えています。

このように、いきなりSDGsの解説から入るのではなく、まずはこども達目線で悩みや課題について考え、それがSDGsとつながっていることを示しています。そうすることで、楽しみながら学べるのはもちろん、SDGsへの興味関心や知識があまりないこども達にもSDGsを身近に感じてもらいやすくなると思っています。

―― 扱われている課題について、「未来を変える！アクションラリー」に参加したこども達が、自分なりの行動を考えるためのヒントなどは用意されていますか？

施設内の展示スポットには、先ほど説明したクイズの答えのほかに、その課題に取り組む企業独自のソリューションやサービスが展示されています。その説明の後に、こども達に「この課題解決のために、あなたはどんなアクションをしたいですか？」と問いかけ、赤、青、緑の３色のスタンプの中から一つを選んでラリーブックに押してもらいます。

たとえば、「カサの大量廃棄」という課題に対するアクションとしては、以下の選択肢を用意しています。

- 今持っているカサを大切に使い続ける。（赤）
- カサが大量に廃棄され、再利用が大変なことを周りの人たちに伝える。（青）
- 役目を終えたカサの新しい使い道を考える。（緑）

▲展示スポットをめぐりながら、自分にできるアクションを考える

内容はそれぞれ異なりますが、どの展示スポットにも必ず三つの選択肢が用意されていて、スタンプの色によりこども達のパーソナリティがわかる仕掛けがあります。赤のスタンプは「よりよい未来のためにまず自分から動き出せる、行動力の持ち主」であることを示す選択肢、青のスタンプは「よりよい未来のためにまず人と協力できる、協調性の持ち主」であることを示す選択肢、緑のスタンプは「よりよい未来のために新しい仕組みや技術を考えられる、想像力の持ち主」であることを示す選択肢になっています。こども達が帰ってきたらラリーブックをチェックし、「赤のスタンプが多いあなたは、まず自分で積極的に動ける行動力の持ち主ですね」などのフィードバックをするようにしています。

最後にこども達にはクイズラリーを通していちばん気になった課題を一つ選んでもらい、その課題解決に向けてどのような行動をしたいのか「アクション宣言」を書いてもらうのですが、一番多かったスタンプの色に沿った宣言をする子が多いですね。**スタンプで三つの視点を示すことで、こども達それぞれの行動・思考の傾向を、自然に引き出せている**のかなと思います。

▲「アクション宣言」で自分ができるアクションを考える

リアルな体験を通じて社会課題への意識を深める

―― 2022年夏には、SDGsについて学べる体験型のパビリオンとして「サンゴ未来研究所」と「サーキュラーフードセンター」を開設されています（期間限定のため現在は終了）。パビリオン設置の意図や、こども達の反応を教えていただけますか。

こども達の「アクション宣言」は延べ３万件以上集まり、その中で特に多かったのが「海洋汚染」と「食品ロス」についての宣言でした。こども達の関心が高いこの二つの課題について、体験を通してより具体的に考えてもらおうとパビリオンを企画しました。

「サンゴ未来研究所」ではサンゴが生息する海の環境や生態系を再現した水槽を展示したのですが、サンゴは取り扱いが難しく、キッザニアに持ってきたときに一部白化してしまったものもありました。こうした現状を目の当たりにすることで、サンゴが死滅していく現状や保護の難しさをリアルに感じてもらえたのではないでしょうか。また、サンゴと共存している生物も展示していたので、サンゴの死滅によって多くの生物が生活できなくなり、生態系が変わってしまうということも実感してもらえたと思います。

「サーキュラーフードセンター」では、食用コオロギの粉末を使ったポップコーンづくりを体験してもらいました。

▲「サーキュラーフードセンター」体験の様子

コオロギに着目したのは、食品生産の過程でどうしても発生してしまう「食品ロス」をコオロギが食べ、そうして育てたコオロギを私たちの食料にすることで、今後の人口増加に伴う世界的な食糧危機、特にタンパク質不足問題のソリューションとなることが期待されるからです。食品ロスの現状を深く学び、ソリューションの好例であるコオロギが実際に「食べられる」「おいしい」とわかったことは、単に食品ロスについて学ぶ以上に、こども達にとってインパクトがあったのではないかと思います。

自分と社会のつながりの実感が主体的に考えるきっかけに

―― 学校団体向けに、① 事前学習、② キッザニアでの体験学習、③ 事後学習の３ステップで構成されたSDGsプログラムも提供されていらっしゃいます。こちらのプログラムは先生方のお声を反映して作成されたとのことですが、どのようなご意見があったのでしょうか。

私たちがお話を伺った中では、約８割の学校が、すでにSDGsを授業や学習に取り入れている、または今後取り組む予定であるとのことでした。また全体の３割くらいの学校から、「SDGsを取り入れた学習をしたいけれどよいツールや教材がない」というご回答をいただき、その課題をキッザニアで解決できたらと考えて本プログラムを制作しました。

先生方からは「教えたい気持ちはあるが教員側に知識がない」「教科の関連付けがされていると教えやすい」「SDGsの学習のためだけにあまり時間は取れない」など、学校現場のお声をいただきました。そこで、先生もこどももSDGsについての知識が深められる関連情報をホームページに掲載したり、学校やこどもの実態に合わせて選べるワークシートを複数用意して、組み合わせや時間割のモデルをプログラムの活用事例としてご紹介したりしています。

また、先生方が最も気にされていたのは、「押し付けがましいSDGsの学習は避けたい」「こども達が主体的に考えるきっかけを作ってほしい」という部分だったので、本プログラムではこども達の「知りたい」という自発的な気持ちを引き出せるよう心掛けました。

事前学習では、未来や世界を想像することでワクワク感を高め、キッザニア体験後の事後学習では「職業」という視点からSDGsを考えます。キッザニアで自分自身が働くという体験をすることで、**自分と社会のつながりに気づき、よりよい未来のために何ができるか、主体的に考えるきっかけを提供できる**プログラムになっています。

―― 「働く」という行為をあまりポジティブに考えられないこどももいると思うのですが、主体的で前向きな意思を引き出すために工夫されていることはありますか？

たとえば配送業について、普段目にする配達の光景から「重い荷物を運んで大変そう」という印象をもっているこどももいると思います。

キッザニアでの配送業の体験は、配達ではなく集荷から始まります。そして「大切な荷物を預かって、期日に間に合うように運んでいる」「荷物を送る人の気持ちも一緒に届けている」といった、こども達がなかなか知りえない仕事の根幹の話をするようにしています。そうして**仕事の全体像を知り、実際に働いてみることで、チームワークや達成感を感じたり、自分の行動が社会に貢献することを実感できたりするこども達が多い**です。

また、キッザニアではこども達を一人の大人として扱うことを重要視しています。先の配送業についての話も、こどもに教えてあげるという姿勢ではなく、「仕事の重要なポイントなので覚えましょう」というように、働く大人に対する姿勢で伝えます。**一人の大人として扱うことによって、自分たちの行動に責任感が生まれ、社会に結びついているということを、より強く感じてもらえている**のではないかと思っています。

―― 最後に、先生方へのメッセージをお願いします。

SDGsの知識はもちろん大切ですが、**自分が気づいたことや課題に感じたことを深掘りしていく探究力もとても大切**だと考えています。それが将来の仕事につながったり、よりよい世界のための一歩を踏み出すきっかけになったりするかもしれません。

だからこそ、大人の私たちができることは、「気づき」を引き出す経験・体験を用意することだと思っています。キッザニアはこれからも、リアルな職業・社会体験と、そこから得られる幅広い「気づき」の提供を通して学校現場のお役に立てれば幸いです。

▲学校向けSDGsプログラムの活用事例（一例）　※Ａ～Ｋまでの11種類のワークシートが用意されている。

「KidZania SDGs」公式サイトはこちら！▶▶

光文書院からのお知らせ

自発的に学ぶことの楽しさを見出す！

デジタルドリル「ドリルプラネット」「自主学習機能」のご紹介

2022年９月１日に実証研究がスタートし、日々進化している**デジタルドリル「ドリルプラネット」**。今回は、９月28日のアップデートで新たに追加された「自主学習機能」についてお届けします。「ドリルプラネット」にご関心をお寄せいただいている先生方、必見です！

自主学習機能

算数の動画を見たいから「きほん」をやってみよう！

漢字の書きも読みも勉強したい。今日は「たしかめ」からやってみよう！

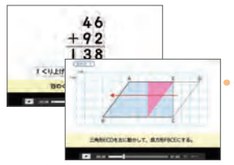
一人ひとりに合った学びを提供。シンプルでわかりやすい学習導線

「自主学習機能」には「きほん」「れんしゅう」「たしかめ」「テスト」の**４段階の学習メニュー**があり、児童は自由に学習メニューを選択できます。自発的に学習に取り組むことで、学ぶことの楽しさを見出します。

① きほん

国語 漢字の用例や書き順アニメーション、成り立ちアニメーションを確認できる。

算数 解説動画やフォローつきの問題※に取り組める。



※フォローつきの問題では、部分積や途中式が１マスずつ採点され、誤答に応じて、ヒントや既習の計算が表示されます。

② れんしゅう

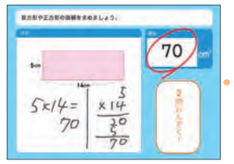
国語 漢字一字ごとの書き方を練習できる。

算数 練習問題（部分積や途中式の採点あり）に取り組める。

③ たしかめ

国語 漢字の読みや書きの確認問題に取り組める。

算数 確認問題（部分積や途中式の採点なし・問題量多め）に取り組める。



④ テスト ※テストは宿題配信機能には搭載されていません。

学習の定着度をチェック。出題される問題で100点をとることが目標。

※画面や機能などは今後変更となる可能性があります。

モチベーションアップの仕組みをプラス！

▶テストマップ

テストで100点をとると、弊社のくりかえし漢字ドリル・計算ドリルでお馴染みの「ピクサー」のキャラクターやアイテムを獲得でき、取り組みによって絵が完成していきます。

楽しみながら学習に取り組むことで、学習の習慣化につなげます。

© Disney/Pixar

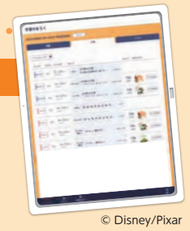
▶スタンプ

自主学習が終わるごとに自分でスタンプを選んで押すことができます。「あきらめなかった！」「発見があった！」「できるようになった！」などの言葉がついたスタンプで、自分の学びを振り返り、次の学びに向かう力を育てます。

© Disney/Pixar

▶学習のきろく

宿題・自主学習・テストすべての取り組み状況が記録されます。学習内容や正解数が表示されるので、自分の頑張りを感じることができ、次の学習へのやる気につながります。



© Disney/Pixar

ドリルプラネットの詳細はこちら▼

まだ間に合います！

デジタルドリルの実証研究参加お申し込み受付中

ドリルプラネットのお問い合わせはこちら

リリース初年度の2022年度（※2022年9月～2023年3月31日）では、学校からお申し込みいただいた児童**先着22万名限定**で、**費用負担なく**ドリルプラネットをご利用できる実証研究を実施しています。お申し込みは、光文書院の教材を取り扱っている販売店（販売店がご不明の場合は弊社窓口）までお問い合わせください（個人向けの提供はございません）。

※お申し込みが上限に達した場合、実証研究は予告なく終了させていただく場合があります。※実証研究のお申し込みは2023年2月28日までです。

T-Navi Edu Vol.13 編集後記

はじめまして、今号からT-Navi編集部に加わりました、新入社員の内田です！T-Navi Edu Vol.13をお読みいただきありがとうございます。

今回の特集「小学校からの金融教育」はいかがだったでしょうか。なんだか難しそう…と思っていた金融教育ですが、キャッシュレスについて議論したり、生活科で育てた野菜をお店に売りにいったりと、新しい授業の可能性にワクワクしました。まだあまり前例のない分野だからこそ、工夫して進める楽しさもあるのではないかと思います。私も社会人１年目として、先生や子どもたちと一緒に金融について学んでいきたいです！

さて、T-Navi編集部では、Vol.13のご感想や特集テーマのリクエストを大募集しています。右下の二次元コードからお気軽にお寄せいただけるとうれしいです。また、Twitterでも募集中です。「**#なるほどてぃーなび**」を付けてつぶやきをぜひご共有ください！　今後ともT-Naviをどうぞよろしくお願いします。内田

取材・原稿作成にご協力いただいたみなさまに心より感謝申し上げます。
次号 T-Navi Edu Vol.14は２月発行予定！　お楽しみに！

ご意見・ご感想はこちらから！

オールカラー！ 冬休み教材／しあげ教材

冬休みまでの国語と算数
基礎・基本はばっちり！

「げんき！ふゆドリル」

1～6年（2教科）定価：200円（税込）

基本から活用まで
前学年までの復習も充実！

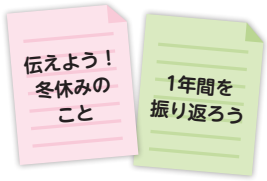
「かんぺき！総しあげ」

1・2年（2教科）定価：390円（税込）
3・4年（4教科）定価：510円（税込）
5・6年（5教科）定価：560円（税込）

とことん端末活用！ 多様なデジタル付録

1 デジタル デジタル冬だより／学年末ふりかえりフォーム Google フォーム・Microsoft Formsに対応

児童とつながる
コンテンツ！
先生はテンプレートを
選んで送るだけ！



冬休みにあったことを
先生にお知らせしよう

元気そうで安心！
休み明けに
聞いてみよう

※ChromeBookは非対応です。※「デジタル冬だより」は「げんき！ふゆドリル」の、「学年末ふりかえりフォーム」は「かんぺき！総しあげ」の教師用付録です。※Google 系サービスの名称やロゴは、GoogleLLC の商標です。※本資料は、Google によって承認または提携されたものではありません。※Microsoft 系サービスの名称やロゴは、Microsoft corporation の商標です。※本資料は、Microsoft によって承認または提携されたものではありません。※コンテンツは開発中のため、変更になる可能性があります。

2 学習に役立つ音声・動画コンテンツ

国語

算数

※英語は音声のみです。

3 デジタル教材

デジ漢 デジタル漢字ドリル
デジ計 デジタル計算ドリル

※iPad 版とWindows® 版をご用意しています。

先生方へ 光文書院より耳より情報！

光文Webサイト 冬休み教材／しあげ教材ページ

Webサイトにて、冬休み教材／しあげ教材の
ご紹介ページを公開しました！

ドリルの詳細をはじめ、新しいデジタル付録
「デジタル冬だより／学年末ふりかえりフォーム」の
サンプルも掲載しております。ぜひご覧ください。

詳細はこちら

T-Navi Edu エデュ Vol.13
2022年 11月

光文書院 Webサイト - https://www.kobun.co.jp/
〒102-0076 東京都千代田区五番町14 TEL:03-3262-3271(代)

学ぶことが好きになる。光文書院